

第68回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第4回：4区）



戸賀湾（写真提供：男鹿なび）

【第4区】

レースは7区間中3区間を終え、トップ学生チームに44秒差の全体2位でレース折返しの4区へ。

4区は、昨年までのコースでは6区にあたり、従来のコースと距離に変更が無い3区間のうちの一区間であり、この駅伝最短区間で距離は僅か4km弱しかないが、最終的な高低差は実に180mに達し、4km14分間ひたすら上りに耐え続けなければならない難コースである。

コースは、走り出してすぐに戸賀湾に別れを告げ再び山岳コースの旧道に入っていく。

最初の1km強だけで約100mの高低差があり、壁のように立ちはだかるコースを選手は一気に駆け上がって行く。

その後も八望台中継所に向けて上りは続き、途中で足が止まろうが、息が上がろうが、容赦なく選手を精神的肉体的に追い詰めていく。

今年、4区を任された秋田県出身で入社6年目の小原は、経理部管理課に所属し、財務諸表に反映させる売上原価の算定、財政状況を把握するために必要な書類の作成、企業経営の最終的な意思決定に必要な判断材料を事業部門に提供するなどの損益管理業務を担当している。



4区：3.8km（戸賀出張所～八望台）

レースは、トップ学生チームに差を広げられたが、まだまだ秒差でトップも視野に展開していく。

今年のレポートは、この後、走った選手の直筆感想からレースのリアルな実況をお届けする！！

<<小原選手レポート>>

今期は長期離脱する怪我もなく順調に練習が消化出来ていたこと、また新たに取り組んでいる背筋強化を目的としたウェイトトレーニングがどうレース結果に反映されるのか楽しみだった。

春先は、新しい取り組みからくる身体的な変化により、思うように結果が出ていなかったが、結果が出るまでは時間が掛かるものと割り切っていたため、駅伝を迎えるにあたって、特に焦ったり、深く落ち込むこともなく、むしろ継続した練習と体幹強化による身体的な成長や、自身への期待からくる精神的な安定により良好な心身状態を維持出来ていた。

レース当日は、スタート時間に合わせていつもより早めに起床、体を起こす意味で朝練を実施した。当日の朝練も調子が良かったからか特に緊張はせず、レースを走るのが待ち遠しかった。

4区は男鹿駅伝の区間の中で一番短い区間であるが、スタートから最終的な高低差180mの上り坂がただひたすらに3.8キロ続くコースであり、走力以上に山登りの適性が必要とされる特殊区間である。

私はレースを出走する際に、入念なレースプランを組み立てて当日のイメージを作るタイプだが、この区間に関してはプランを考える必要性を感じず、時代錯誤かもしれないが敢えていうなれば日本人の美学である気合と根性、苦しい場面もただひたすらに“粘り倒す”ことだけを意識した。



最初の上りを走る小原

私が櫛を受け取った時点では総合順位でトップ東洋大Aとは44秒差、一般の部で比較すると後続との差は2分ほど開いており、国道から外れる旧道にコースが移ったことで、視界が狭まったために、目視では他チームを確認できない単独走での走り出しとなった。

レース序盤はリラックスして走ることが出来、タイムも予定通りに推移したが、1.5キロほど上って程なくして同区間で一番勾配が急な上り坂に入ると必然的にタイムが落ちていった。

今までの競技人生で、始めから終わりまで一貫した上り坂コースを走った経験がなく、自分のペースが他チームの選手と比べて速いのか遅いのかの判断がつかないため、中盤のタイムの落込みは不安からくる精神的な疲労との闘いだった。

そんな中、レースは後半に差し掛かり、直線コースに差し掛かったことで、櫛を受け取った時点で開いていた差も、先頭が肉眼で捉えられる位置に見えてきた。

これにより不安は払拭され、息を吹き返すように、ラストスパートに向けて、もう一段階キアを上げることが出来た。



八望台からの眺め（写真提供：男鹿なび）



八望台誘導路へ入る小原

この時、徐々に先頭との差が詰まっていくことで自身の気持ちも高揚していったが、それ以上に伴走車からの熱量が凄まじく、罵声にも似た櫓が飛ぶ。

坂がなだらかになった時に休もうとしている気持ちを見透かされているかの如く、気持ちが切れそうになった瞬間に後ろから背中を押されているような迫力ある声援だった。

櫓を佐野選手に渡した直後に、地面に倒れてしまうほど身体の力を全て出し切ったと実感出来る納得のレースを走れたが、レース直後の身体への衝撃と苦しさから、自分勝手ではあるが、欲を言うなれば、今後は他の区間での出走を検討して頂きたいと心の中でふと思った。



上りの続くコースを攻略する小原

自分のレース総括としては、先頭チームとの差を詰め、目標としていた13分55秒を達成出来たことは個人の成長を感じるとともにチームに貢献出来たと感じる。

しかし、目標は達成出来たものの、区間2位で他実業団の選手に区間賞を献上してしまったことから、まだまだ単純な走力に差があり、今後競合する実業団と互角に勝負するには現状の練習の質および量の基準をもう一つ上のステージへレベルアップしなければいけないと感じた。

特にタイム差が顕著に表れる中間走でのタイムの落込みを最小限に抑えることと、ラストスパートの切替えが今後のレース課題と認識している。

今後については、まず業務面では、外部に対し業績や財政状況といった情報提供を正確に行うことは勿論のこと、企業内部において事業部門が自らの顧客であるという意識を持ち、間接的に利益貢献するために、事業の意思決定に紐づく判断材料を提供し、そのニーズを理解して先回り出来るような人材になることが目標である。

また競技においては、個人ではフルマラソンへの挑戦、チームとしては東日本実業団駅伝大会にて総合タイム4時間切を目標に、今回の駅伝で浮き彫りとなった課題を克服し目標をクリア出来るよう日々の練習に精進していく。

業務と競技の両方に目標を設定し、達成するために取り組むことは簡単ではないが、強化実業団チームでは出来ない貴重な経験を、この環境だからこそ出来ていると思う。

ずっと競技を続けられる訳ではないので、今だからこそ出来ることを経験値として積上げ、今後の社会人生活に活かしていきたい。



中継所のある八望台（写真提供:男鹿なび）

最後に、今大会におきましてサポートをして頂きました秋田新電元の皆様、当日現地まで応援に駆けつけて頂きました鈴木社長、堀口工場長をはじめとする当社の皆様、当日ご支援ご声援頂きまして、誠に有難う御座いました。

私たち陸上部がこうして競技に打ち込めているのは、日頃よりサポート頂いております大勢の皆様のお蔭であり、この場をお借りして、あらためまして競技に専念出来る環境を提供頂いていることに対し深く感謝申し上げます。

男鹿駅伝優勝を前半期の目標とし、チーム全体でベクトルを合わせることが出来ました。

優勝という結果をご報告することで、少しでも皆様の活力にして頂けたら陸上部一同、大変嬉しく思いますし、今後も皆様のご期待に添えるよう、精一杯努力して参る所存です。

今後とも変わらぬご支援ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

(終)

【4 区成績】一般の部

距離 : 3.8km

順位 : 2/41 位 (大学を含む全体順位 : 4/52 位)

タイム : 13 分54 秒 (目標タイム : 13分55 秒)

※ 小原選手のレポートいかがだったでしょうか。

競技だけでなく、業務にも向上心を持って一生懸命に取り組んでいる普段の姿勢が伺えるレポートだったと感じました。

また、日頃から応援頂いている方々への感謝溢れる気持ちがよく表れていました。

年齢的にもまだこれからが勝負の小原選手とチームの益々の活躍をご期待下さい！！

以 上

※ イベントレポート (第5回 : 5 区) へ続く